

表紙について

印刷画像における再現では、フィルム原版は陽画（ポジティブ）か反転された陰画（ネガティブ）という形態をとる。これらを重ね合わせると互いに相殺し、+（プラス）と－（マイナス）で『0』になるように、画像としては『無』という意味を持たないものとなる。ここで、この重ね合わせた状態のものにわずかな間隙を与え、光を投じて強制的に画像を生じさせると、陽画でも陰画でもない画像のアウトラインのみが抽出された新しい世界が誕生する。この結果、トーンや色合いがなく、シンボリックな『線形』による中性的な表現が可能になる。この効果を4色印刷での網点画像に応用し、象徴主義美術の代表とされるエドワルト・ムンクの《Madonna》の愛と苦悩を表現したものである。1～2メートル離れ、目を細めて鑑賞して戴ければ幸いです。

金子 良二